

東日本国際大学学術シンポジウム

《公開講演・討論会》

「震災から一年」

フクシマの復興と日本の将来

平成24年1月

「震災から一年」シンポジウム実行委員会

## I. 開催趣旨

昨年3月11日、私たちは未曾有の大震災を経験いたしました。今日「東日本大震災」と呼ばれるこの大災害で、福島県はいわゆる「三重苦」を強いられ、現在に至っております。まず第一が地震と津波による地震被害、第二が福島第一原子力発電所の損壊による放射能災害、そして最後に原発による風評被害がそれにあたります。

すでにご高承のように、福島県、なかでも原子力発電所を抱える浜通りは、震災から一年近くを経過した現在においてもなお、震災のもたらした困難に直面し続けております。テレビ等で日々報道される放射能値や除染をめぐる各自治体の混乱などは、原発問題が短期間で終結する問題ではないことを如実に物語っております。

これらの引き続く困難は、浜通り地域の将来、国家の原子力政策、ひいては原子力と人間はどのように共生していくべきなのかといった、文明論的な問題を私たちに突きつけています。すなわち、この度の東日本大震災にともなう原子力発電所の問題は、一原子力発電所や東京電力の問題を超えて、「地域社会と原子力はどのようなかたちで向き合っていくべきなのか」「私たち人間は、今後どのような生き方を選択して行くべきなのか」という、文明論的な射程をもった問題を私たちに喚起しているのではないのでしょうか。

将来にまで持ちこされる原発問題を、深く考えることは、現在を生きる我々福島の間人、そして日本人に課せられた重大な責務の一つであると考えます。

つきましては、このたび《東日本国際大学学術シンポジウム》として、シンポジウム「震災から一年 フクシマの復興と日本の将来」を開催いたします。「フクシマ」というカタカナ名の副題には、今回の問題を広く世界的なレベルで考えたいとの主催者の思いが込められております。

登壇者には、いま震災と原発を語るのに最もふさわしい多彩な方々が一堂に会し、総合検証を行うことといたしたく存じます。

基調講演には、『中村屋のボース』で大仏次郎賞・アジア太平洋賞を同時受賞され、また政治問題について積極的な発言を行われている新進気鋭の論客、中島岳志・北海道大学大学院准教授にお願いいたします。

続いてのパネルディスカッションでは、まず遠藤勝也・福島県双葉郡富岡町町長に、原発問題の最前線で指揮をとられている現状報告と、貴重な経験をお話いただきたいと思います。

引き続き片岡龍・東北大学大学院准教授には震災後、被災地をまわられた経験と有識者の立場から、今回の問題点をあらためて明確にさせていただきます。

また福迫昌之・東日本国際大学経済学部長、兼地域経済・福祉研究所所長には、いわきから見た震災と原発の意義について論じていただく予定です。

また主催者側として、コーディネーター役を先崎彰容・東日本国際大学東洋思想研究所准教授にお願いし、学問と、震災・原発という現実とを架橋する、確実な議論を引き出していくよう努めてまいります。

東日本大震災がもたらした課題は、いまだ解決には至ってはおおりません。我々は、震災を教訓に未来志向をもって、新たな道筋を照らし出すシンポジウムの開催に尽力したく存じます。皆様には何とぞご高察のうえ、ご支援・お力添えを賜りますよう宜しくお願いのほど申し上げます。

「震災から一年」シンポジウム実行委員会

## II. 行事概要

- (1) 行事名： 東日本国際大学学術シンポジウム  
「震災から一年」 フクシマの復興と日本の将来
- (2) 日時： 平成24年3月10日（土）  
午後2時開会～5時40分閉会（予定）
- (3) 会場： 東日本国際大学附属昌平中学校・高等学校体育館  
（約700名収容）
- (4) 登壇者（決定）

- ・ 基調講演（60分） 中島岳志氏 （北海道大学大学院准教授）
- ・ パネルディスカッション（120分）
  - パネリスト 中島岳志氏
  - 遠藤勝也氏 （福島県双葉郡富岡町町長）
  - 片岡龍氏 （東北大学大学院准教授）
  - 福迫昌之氏 （本学地域経済・福祉研究所所長）
  
- コーディネーター 先崎彰容氏 （本学東洋思想研究所准教授）

## III. 主催ならびに後援・協賛など

主催 東日本国際大学「震災から一年」シンポジウム実行委員会  
実行委員長 田久昌次郎（学校法人昌平覚理事長・いわき短期大学学長）

後援依頼

いわき市／双葉地方町村会／富岡町／いわき商工会議所／いわき青年会議所／朝日新聞社福島総局／福島民報社／福島民友新聞社／福島放送／福島中央テレビ／福島テレビ／ラジオ福島／財界ふくしま／いわき民報／いわき市民コミュニティ放送

協賛 平凡社 筑摩書房 『創作と批評』編集部（韓国）

事務局 東日本国際大学東洋思想研究所

## IV. 登壇者ご略歴

中島岳志

1975 年生まれ。大阪外国語大学ヒンディ語専攻卒業。京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科博士課程終了。博士。現在、北海道大学公共政策大学院准教授。著書『ヒンドゥー・ナショナリズム』『中村屋のボース』（05 年大佛次郎論壇賞受賞）ほか多数。

片岡龍

1965 年生まれ。早稲田大学文学部卒業。早稲田大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。現在、東北大学大学院文学研究科准教授。著書『日本思想史ハンドブック』（新書館）、「荻生徂徠 独学の魅力」（『近代東アジアの生と学問』所収）ほか多数。

福迫昌之

1967 年福島県いわき市生まれ。慶應義塾大学商学部卒業。慶應義塾大学大学院社会学研究科社会学専攻修士課程修了。社会学修士。現在、本学経済情報学部学部長・教授（兼）地域経済・福祉研究所長。いわき市地域情報化研究会委員、新・いわき市総合計画基本計画専門委員会委員長などのいわき市の複数の役職を兼務。

遠藤勝也

福島県双葉郡富岡町町長。1997 年 8 月より現職。（以下、ご経歴を追加予定）。

先崎彰容

1975 年東京生まれ。東京大学文学部卒業。東北大学大学院日本思想史博士課程単位取得退学。博士。現在、本学東洋思想研究所准教授。著書『個人主義から〈自分らしさ〉へ—福沢諭吉・高山樗牛・和辻哲郎の「近代」体験』、『高山樗牛 美とナショナリズム』ほか。

## 東日本国際大学学術シンポジウム

# 「震災から一年」 フクシマ復興と日本の将来

2012年3月10日(土) 午後2時～午後5時40分閉会予定

### シンポジウム次第

**はじめに** (14時開始) (司会進行：本多創史・本学福祉環境学部准教授)

理事長あいさつ 「震災復興と地域社会—シンポジウム開催にあたって」  
学校法人昌平齋理事長 田久昌次郎

来賓あいさつ 鈴木英司 福島県いわき市副市長

**第Ⅰ部** (14時15分～15時15分)

講師紹介 松岡幹夫・本学東洋思想研究所所長

**基調講演「震災から一年——フクシマ復興と日本の将来」**

中島岳志・北海道大学大学院准教授

休憩 (15時15分～15時30分)

**第Ⅱ部** (15時30分～17時30分)

**各パネリストによる討論会**

パネリスト：中島岳志・北海道大学大学院准教授  
遠藤勝也・福島県双葉郡富岡町町長  
片岡 龍・東北大学大学院准教授  
福迫昌之・本学地域経済・福祉研究所所長

コーディネーター：先崎彰容・本学東洋思想研究所准教授

**おわりに**

学長あいさつ 石井英朗 東日本国際大学学長 (終了予定時刻 17時40分)

主催：学校法人昌平齋・東日本国際大学